

令和8年産 麦類技術情報 第1号

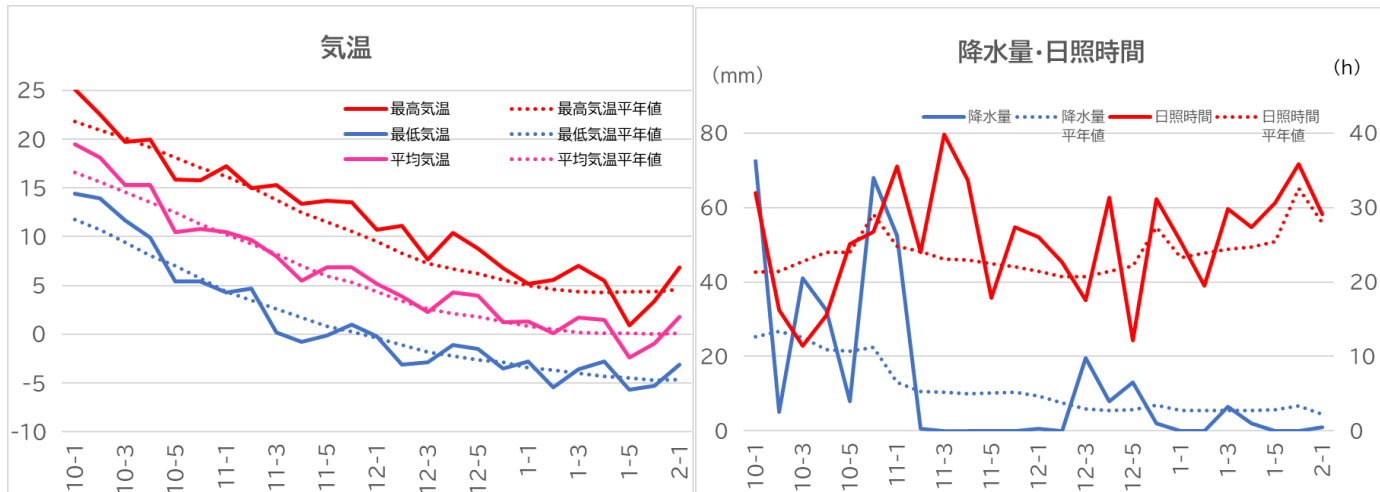
令和8年 2月12日 宮城県美里農業改良普及センター

Tel 0229-32-3115 Fax 0229-32-2225

URL <https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



1 気象経過（10月第1半旬～ アメダス鹿島台、下図1）



11月以降、最高気温が高く最低気温が低い傾向が続いています。
年明け以降は降水量が少なく、日照時間は長めの傾向です。

2 生育調査ほ生育概況

表1 小麦生育調査結果

品種	地区	区分	播種日	12月15日		2月10日	
				草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)
シラネ コムギ	大崎市 鹿島台	本年値	11/29	-	-	5.9	473.5
		前年比・差	-1	-	-	109%	143%
夏黄金	涌谷町	本年値	11/11	6.5	219.1	7.7	291.3
		前年比・差	+6	77%	88%	84%	62%
		平年比・差	+10	70%	66%	91%	59%

※ シラネコムギ12/15調査は出芽前のため欠測。またほ場変更のため平年値・差なし。

本年は播種が遅れ、播種後も過去数年に比べ低温・少雨であることから、茎数が少ない傾向です。また、鳥害を受けているほ場も多く見られます。

茎数不足、地上部が見えないほどの鳥害を受けたなどのほ場では、今後の生育を良くするため、越冬後の株直し追肥を行う、排水対策を万全にして湿害による生育停滞を防ぐなどの対処を行ってください。

生育調査ほでも同様の傾向で、夏黄金では平年に比べ茎数が少なくなっています。
シラネコムギでは、大豆後作ほ場であるため、2～2.5葉期ごろと分けつが始まっていませんが、出芽が良かったことから茎数は昨年より多くなっています。
幼穂は夏黄金、シラネコムギとも確認されませんでした。

3 今後の管理について

(1)排水の見直し

- ・麦の湿害を防ぐだけでなく、麦踏みや追肥等の作業を適期に行うために水はけを良くしましょう。
- ・明きょが施工されていても、深さが足りない、排水路がないなど十分な効果を発揮できないほ場が見られます。右図のように、明きょからほ場外への排水路を確保できているか確認しましょう。

(2)麦踏み

- ・越冬後の麦踏みは、3葉期以降～茎立ち(主稈長 2cm、幼穂長 2mm 程度)の間に実施しましょう。越冬後は、「平均気温 4℃以上」「ほ場に靴で入って、土がつかない程度に乾いたとき」が踏み時です。
- ・越冬後に茎立ち前(主稈長 2cm、幼穂長 2mm 程度)まで、1～2 回実施を基本とします。

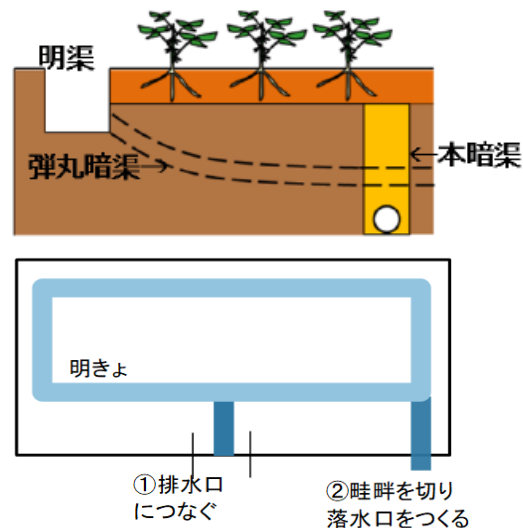


図2:明きょ施工のイメージ図
(上)深く掘り弾丸暗渠に接続
(下)排水路の確保

- 生育が遅れているほ場では、麦踏み回数を少なくして茎数の確保を優先しましょう。
- 鳥害の後は浮き根が生じ、凍霜害になりやすいので、なるべくすぐに踏みましょう。

(3)追肥

- ・株直し追肥は、越冬前生育量(茎数 400～500 本/m²)が確保されているほ場では原則として必要ありません。
- ・以下のような場合、幼穂形成期前に窒素成分量で 1～2kg/10a を追肥します。
 - ①全身が黄化するなど極端な肥料切れが見られる場合
 - ②地上部が無くなるほどの鳥害を受けた場合
 - ③越冬前生育量が不足している場合

株直し追肥は、起生期(平均気温4℃に達したころ)が適当とされます。鹿島台アメダスの平年値では平均気温 4℃に達するのは 3 月 17 日ですが、ここ数年は暖冬のため 2 月下旬には平均気温 4℃を超える日が多くなっています。

- ・大麦では、初期生育が旺盛な場合、冬季に葉色が低下することがあり、その場合は株直し追肥を行います。追肥の時期や量は小麦と同様です。

(4)早春堆肥施用について

- ・水稻、大豆後作などで麦作付け前に堆肥散布を行わなかったほ場では、越冬後(3 葉期)～幼穂形成期前まで、麦上から堆肥散布することができます。

詳しくは右の QR コードから、普及センターHP 上のパンフレットをご覧ください。

